

# 経済 TOPICS

No. 252

(2026年2月16日)

## 景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費と輸出が横這い圏内の動きを続け、生産が底堅く推移しているなか、設備投資が高水準を維持していることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)の前年比プラス幅は、縮小している。この間、長引く食料価格の上昇や日中関係の冷え込みなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 個人消費が鈍化傾向にあるものの、生産が緩やかな持ち直しの動きとなり、雇用情勢に改善の兆しがみられるほか、設備投資が大幅な増勢を続けていることから、全体としては底堅く推移している。消費者物価(総合)の前年比プラス幅は、縮小している。

### (参考)日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の前年比プラス幅が縮小し、エネルギー価格が下落したことなどから、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比プラス幅は縮小した。この間、長引く食料価格の上昇に伴い、エンゲル係数(家計の消費支出に占める食費の割合)は、27%前後の高水準を続けている。

〈米国〉 サービス価格の前年比プラス幅が小幅縮小したことなどから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅が縮小している。